



美川憲一オンステージ in 岐阜タカシマヤ前わくわく広場 美川憲一さんによる歌とトークのイベント

◆岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会

2024年7月7日(日)に、岐阜タカシマヤわくわく広場にて、「美川憲一オンステージ」が開催されました。7月末に同百貨店が閉店するのを前に開かれたイベントです。12時からのイベントでしたが、早朝から並んでいたファンの人などで、午前中からすでにかかなりの人がひしめき合う状況で、スタッフの方と警察官の方も交えて交通整備に当たっていました。そんな収拾がつかない雑踏の中、警護に当たる柳ヶ瀬プロレスのプロレスラーに囲まれながら美川さんの登場です。



▲警護する柳ヶ瀬プロレスのプロレスラーと美川さん

■ ヒット曲を熱唱

ステージに上がった美川さんは、まずはヒット曲「さそり座の女」を熱唱。待ちかねたご本人の登場に、会場の熱気は一気に最高潮となりました。

その後は、司会者の方との巧妙な掛け合いに

よるトークセッションで、お話でも会場を盛り上げます。ご自身のデビューから、柳ヶ瀬とどのように関わってきたか等をお話ししていただきました。

また、このステージの後、柳ヶ瀬の映画館「ロイヤル劇場」で復刻記念上映された映画「柳ヶ瀬ブルース」のお話もしていただきました。美川さんご自身もこの映画に出演されていたそうですが、台詞がたった一言だけだったと会場を笑わせていました。



▲高島屋前で数々の名曲を熱唱

■ 美川さんから柳ヶ瀬へのアドバイス

昨年リリースした新曲「ふたつの愛」を披露していただいた後、柳ヶ瀬商店街理事長水野琢朗氏と、今月で閉店する岐阜高島屋社長橋本逸郎氏がステージに上がり、高島屋の閉店や柳ヶ瀬の将来について語り合いました。水野理事長から花束を贈呈され、美川さんからも労いの言葉

をいただいた橋本社長は、「涙が出そうなのをこらえています。47年間、柳ヶ瀬の人に愛していただき感謝しています。最後まで頑張りますので、是非、高島屋に足を運んでいただきたい。」と話され、感慨深げな様子でした。



▲花束を渡された橋本社長

また、美川さんから、35歳の水野理事長に、「若いんだから若者を商店街に呼んでほしい。最近若者の間でも、昭和レトロを新鮮に感じていて検索もしているから、柳ヶ瀬のレトロな雰囲気や若い人たちに発信してほしい。」という、柳ヶ瀬再生のための貴重なアドバイスをいただきました。

■ 柳ヶ瀬名物だるま焼きを試食

その後、水野理事長から柳ヶ瀬の再興に向けて作った、柳ヶ瀬新名物の大判焼き「だるま焼き」の紹介をしていただきました。「134年の歴史の中で、柳ヶ瀬は濃尾地震と岐阜空襲で既に2回滅んでいきます。それでも再起し、粘り強く生き延びてきた。2年前に美川さんに来ていただいた時も、『しぶとく生きるのよ』という言葉をいただきました。現在も高島屋さんの撤退な

ど厳しい状況ですが、ダルマの様にしぶとく何度も立ち上がろうという思いを込めて作りました。」

美川さんはステージ上で渡されただるま焼きを「食うわ」の一言の後パクリ。「うーんうめえわ」の感想の後、おかわりのリクエストもいただきました。



▲柳ヶ瀬名物だるま焼きを食べる美川さん

ステージ後は、美川さんに柳ヶ瀬商店街の練り歩きをしていただき、大成功でイベントは幕を閉じました。イベント後にお話を伺った水野理事長からは、「今回のイベントは大成功でした。これだけ人気のある方なので毎年呼ぶのは難しいですが、ご本人の体調もご確認しながら、またいつか美川さんを柳ヶ瀬にお呼びして、地域の方々に喜んでいただきたいと思います。」という思いを語っていただきました。

【だるま焼きが購入できるお店】

岐阜お芋屋

住所：〒500-8876

岐阜県岐阜市日ノ出町2丁目5-8

営業時間：11:30～売切れ次第終了

定休日：木曜日

馬頭のさんぽ道 ～子供も外国人も大集合の七夕イベント～

◆高山本町会商店街振興組合

2024年7月6日(土)に、高山本町会商店街において「馬頭のさんぽ道」というイベントが

開催されました。昨年からは始まり今年で2回目となる企画です。小雨がぱらつく空模様でした

が、お子様連れや外国人観光客などで大変賑わっていました。

■ 地元高校生による七夕企画



▲英語の説明文を掲げる飛騨高山高校の生徒さん

歩行者天国内では、地元飛騨高山高校ビジネス科の生徒さん達が、お子様向けに様々な催しを開いていました。この日は、七夕を前日に控えるということで、短冊に願いを書いてもらい笹につけてもらったり、スーパーボールすくいをしてもらったりなど、お子様が喜ぶ催しを複数開催していました。高山は外国人観光客が多いため、英語による七夕の説明ボードを掲げて、外国の方にも日本文化を知ってもらおうという取り組みも見られました。

■ 馬頭絵馬のぬり絵会

本町2丁目にある山桜神社前では、「馬頭絵馬」のぬり絵会が開催されていました。山桜神社の「山桜」は、江戸時代に実在した馬の名前で、当



▲馬頭絵馬のぬり絵をする子供達

時の飛騨国の高山城城主を火災から救ったという言い伝えがあり、地元の人からは「馬頭さま」と呼ばれ愛されています。神社前テントにはテーブルが設置され、子供達がクレヨンで馬頭絵馬の絵に夢中になってぬり絵をしていました。

■ 巨大シャボン玉作りにチャレンジ

ぬり絵以外にも子供達が喜ぶイベントが沢山開催されていました。中に子供が入れるくらいの巨大なシャボン玉作りや、路上にチョークで落書きをするコーナー、ピエロのバルーンアートなどの催しが沢山あり、子供達が走り回っているのが印象的でした。



▲シャボン玉コーナーや路上落書きコーナー

■ 高山西高校茶道部による呈茶席

また山桜神社内では、高山西高等学校茶道部と本町会商店街にある茶道具店「松風園まつの茶舗」さんによる呈茶席が開催されていました。



▲外国人観光客の茶道体験

300円ほどの参加料で本格的な茶道を体験できるということで、沢山の方が参加され賑わっていました。中には外国人観光客の参加者もいらっしやり、正座が難しそうで胡座の姿でしたが、とても楽しんでいる姿が見られました。

■ 商店街の原点に帰る取り組みを

本町会商店街振興組合専務理事であり、創作郷土寿司のお店を営む、梗糸食品の今川さんにお話をお伺いしました。

「当イベントは、去年の同時期に第1回を開催し、今回が2回目となります。以前は、飛騨高山の美味しいものが集まる『味まつり』というイベントが当地域で開催されていましたが、開催場所が移転されてしまったため、この地域の守り神である馬頭さまの名前をいただき、当イベントを始めました。

高山市内の各商店街も、経営者の高齢化や人手不足などの問題があり、こういったイベントの独自開催が難しくなってきましたが、高山のまちづくり会社のご協力や、各商店街が商店街の垣根を越えてお互いに連携を取り合うことが、中心市街地活性化につながるのではないかと思います。

飛騨高山は近年、インバウンドのお客様や日本のお客様が多く来て頂ける観光都市となり、とてもありがたいことですが、こうしたイベントを通じて観光のお客様だけではなく、地元のお客様に商店街に足を運んでもらえるきっかけになればという思いがあります。今後も各商店街で連携をとりながら、様々なイベントを開催することで、観光のお客様だけではなく、地域に必要なインフラとしての商店街として、原点に帰るような取り組みを進めていきたいと考えております。」

Hon-San キッズフェス ～警察や大相撲とのコラボレーション～

◆高山本町三丁目商店街振興組合

2024年7月6日(土)に、高山本町三丁目商店街において「Hon-San キッズフェス」というイベントが開催されました。生憎午後から本格的な雨が降ってしまい、縮小開催となりましたが、お子様を連れてご家族がアーケード内の様々なイベントを楽しむ様子が見られました。

■ 大相撲ふれあいコーナー

三丁目商店街の小杉仏壇店の前では、初日が間近の名古屋場所を盛り上げる、人気力士の等身大パネルが展示されていました。「遠藤」「輝」など、高山に近い北陸出身の力士のパネルでしたが、いつかは高山出身の力士のパネルを飾りたいと小杉仏壇店の下畑さんはおっしゃっていました。また、大相撲の公認マスコットあんこ山もやってきていて、子供たちが集まって抱きついたり楽しそうな様子が見られました。



▲大相撲公認マスコットあんこ山に集まる子供たち

■ パトカー&ミニ白バイ試乗コーナー

かじ橋駐車場前では、地元警察署によるパトカー・ミニ白バイの試乗会や、警察官の制服を試着する「なりきり警察官」の企画が開催されていました。ミニバイクは、ナンバーをつければ公道も走れる本物のバイクです。子供たちが集まり楽しそうに試乗する様子が見られました。見

守る警察官の方は地元高山出身の方で、こういったイベントを機に敷居が高いと思われる警察を身近に感じてもらい、警察官になりたいという地元の子供が増えてくれたらという思いを語っていただきました。パトカーに試乗している子供たちなども見られ、とても貴重な体験を提供してくれていました。



▲ミニ白バイに試乗する子供たち

■ 雨でも楽しめるにぎわい交流館「大政」

午後から雨が強く降ってきてしまい人通りがまばらになる中、三丁目商店街に隣接する公共施設「飛騨高山にぎわい交流館大政」では、雨宿りも兼ねて子供たちが集まり賑わいを見せていました。



▲飛騨高山にぎわい交流館「大政」

ここ大政では、子供が遊べるスペースや積み木のおもちゃなどが常設されており、いつでも自由に利用することができます。この日も外で遊べない子供たちが集まり、ブロック遊びなどを行っている様子が見られました。また、同時開催

されていた「飛騨高山サマーフェスティバルまちなか歩いてクイズラリー」のスタンプ設置場所にもなっており、雨にもかかわらず多くの人々が訪ねる様子が見られました。

■ 若い人たちへの世代交代を

本町三丁目商店街組合理事の西尾さんにお話を伺いました。

「元々はコロナ前から『Hon-San マルシェ』という名前で、キッチンカーやクラフト商品のイベントを定期的に行っていましたが、より子供向けのイベントをやりたいということで、「Hon-San キッズフェス」という名前に変えて取り組んでいます。



▲ボディジュエリーショップで遊ぶ子供たち

今回はあいにく午後から雨模様でしたが、晴れていた午前中は、電気屋さんが冷蔵庫などの大きな段ボールを使用して作った段ボール迷路や、ボードゲームやボールプールのコーナーなどで賑わいました。高山は大学が無いので、高校を卒業すると地元を離れる子供たちが多いですが、こういった楽しいイベントで地元でのいい思い出を作ってもらい、大人になったときに高山に帰ってきてくれる人が増えればと思っています。この商店街も高齢化が進み、若い人たちが少ない現状があります。今後も商店街を続けていくためには若い人たちへの世代交代が必要不可欠ですので、今後も子供や若者世代に向けたイベントで地域の活性化と世代交代を進めていきたいと思っています。」

【取材・記事 中小企業診断士 足立信秀】

◆ 独立行政法人中小企業基盤整備機構 令和6年度中小企業アドバイザー(中心市街地活性化)派遣事業

本事業は、中心市街地活性化等に関し課題を抱える下記のアドバイス対象者を側面支援するため、実務知識・ノウハウを持つ専門家を派遣し、アドバイスをを行うものです。

派遣先の自主性の尊重をアドバイスの基本とするため、アドバイスを受ける側に入りこむような作業(代行や労力の提供)のほか、協議会の判断や意思決定を主導することはいたしません。一般的に言う「経営コンサルタント」とは、皆様との関わり方において異なる点がある事をご承知おきください。

1. 事業の要件

アドバイス対象者

- 中心市街地活性化協議会
- 認定民間中心市街地商業活性化事業者である中小企業者

受付期間

令和6年4月1日(月)～令和7年2月28日(金)

派遣実施期間

令和6年4月～令和7年3月14日(金)

アドバイス時間

半日(0.5～4.0時間以下)または1日(4.0時間超※昼食・夕食の食事休憩除く)

利用日数

年間合計 10.0事案以内

利用者負担

年間合計 3.0事案(基本計画認定中の地域は5.0事案)まで無料

対象事業

次の①②のいずれかに掲載されている事業が対象となります。

- ①法に基づく認定計画掲載事業もしくは掲載見込の事業
- ②各地域で定めた中心市街地活性化のための計画の掲載事業もしくは掲載見込の事業

※内閣総理大臣の認定を受けていない計画および認定計画期間が終了した計画も含まれます。

アドバイステーマ

- ①中心市街地活性化協議会の運営強化
- ②中心市街地活性化協議会による基本計画への意見提示
- ③施設整備計画の策定および見直し
- ④施設運営に係る事業主体の構築
- ⑤ソフト事業計画の策定および見直し
- ⑥ソフト事業運営に係る事業主体の構築
- ⑦まちづくり会社等の運営改善
- ⑧タウンマネージャー活動の業務改善
- ⑨エリアマネジメント全般に係る課題解決
- ⑩その他機構が認めるテーマ

派遣するアドバイザー

中小企業アドバイザー(中心市街地・商店街活性化)

アドバイス対象外の業務

次の内容は、本制度における「アドバイス」とはならず、業務対象となりません。

- ①「計画作り」等の実務作業をアドバイザーが協議会等に代わって行うこと
- ②本来協議会等の事務局またはタウンマネージャー、事業の実施主体者などが行うべき業務
- ③資料の作成代行、会議の司会進行
- ④講演・セミナー等における講師や出演者、他都市の事例視察等

お問い合わせ先

独立行政法人中小企業基盤整備機構
高度化事業部 経営診断統括室 まちづくり推進室

〒105-8453

東京都港区虎ノ門3-5-1

虎ノ門37森ビル

TEL: 03-5470-1632

FAX: 03-3578-3372

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。